大学生の防災意識調査に関するアンケート調査

山口大学大学院　学○　諏訪宏行
住信情報サービス　非　佐々木太郎
山口大学工学部　正　朝位孝二

1. 緒論

防災はハード，ソフト両面からの対策が重要である．ソフト的防災対策が有効に機能するためには，住民の防災意識や災害に対する知識がある程度高いレベルに達していることが重要である．したがってソフト的対策を施す為には，まず，住民の防災意識レベルを把握することが必要である．

本研究では、その第一段階として，山口大学工学部社会建設工学科の学生を対象に防災意識に関するアンケートを実施し，若い世代の防災意識について検討をおこなったので，その結果を紹介する

2. アンケートの調査方法と回答者の属性

防災に関係の深い社会建設工学科の学生と比較のために関係の薄い経済学部の学生に、総計10個の質問を載せたアンケートを2004年12月17日～20日に配布した．

学年別回答者数，男女比，回答者の出身地域比は**表-1**，**表-2**，**図-1**に示す．又，北海道，北陸，東海，信越，関東，海外の地域については回答者が少数のため，その他にまとめた．

表-1　学年別回答者数

社会建設工学科		経済学部	
1年	72	1年	0
2年	67	2年	95
3年	68	3年	66
4年	51	4年	23
大学院生，Dr	49	大学院生	4
合計	307	合計	188
総計			495

表-2　男女比

男	69%
女	31%

3. アンケートの内容と集計結果

3.1 災害に関する関心度

地震，風災害，水災害，落雷，土砂災害，津波，火山活動について関心の度合いを調査した．関心度を5段階評価で尋ねた．「大変関心ある」を2点，「関心がある」を1点，「どちらともいえない」を0点，「関心がない」を-1点，「全く関心がない」を-2点として集計した．またその合計点を回答した人数で除したものを評価点とし「ポイント／人数」の単位で表した．回答者すべてが「大変関心ある」と回答した場合2ポイント／人数となる．

アンケート結果を**図-1**に示す．両学科ともに地震に対する関心度が高い．落雷，津波，火山については両学科ともに関心度は低い．総体的に社会建設工学科の学生は，経済部の学生と比較すると，災害に対しての関心度が高いことが分かった．特に土砂災害においては倍以上の関心度を持っている．

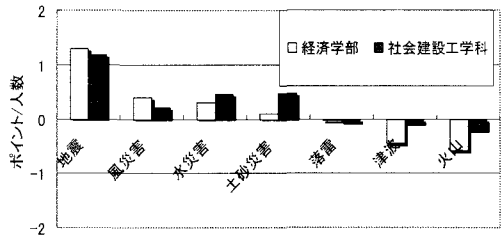

図-1　両学部生の災害別関心度

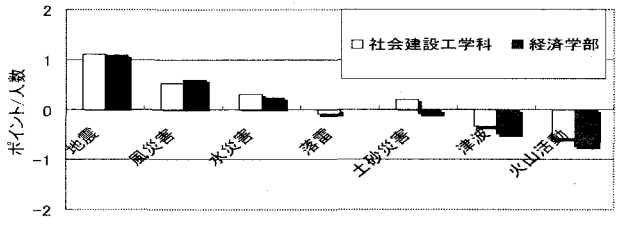

図-2　両学部生の災害別予想被災率

3.2 災害別予想被災率

図-2に上記災害に対して将来自分自身が被災する可能性ついて質問した．「強く思う」を2点，「思う」を1点，「わからない」を0点，「思わない」を-1点，「全く思わない」を-2点として集計した．評価方法は

3.1 と同様である．社会建設工学科の学生は，経済学部の学生と比較すると，災害に対しての危機意識は高いことが分かった．しかしながら，両学生とも身近に起こりにくい災害（津波、火山活動）は被災する確率が低いと考えている学生が多く存在する事が分かった．

3.3 災害に対する防災対策および知識の有無

防災対策に関する質問の結果を**図-3** に示す．現在住んでいる家で背の高い家具が地震時に倒れないように固定しているか質問した．固定している回答した学生は両学部とも 20%に満たなかった．また被災時に備えて非常食や非常時携帯品を準備しているか質問した．準備していると回答した学生は両学部とも 30%に満たなかった．具体的防災対策という面では，両学部生ともに対処が低いことがわかった．

防災に関する知識についての質問の結果を**図-4** に示す．避難場所を知っているか質問では知っていると回答した学生は両学部共に 30%に満たなかった．そして洪水ハザードマップについて知っているかという質問では知っていると回答した学生は済学部の学生よりも社会建設工学科の学生は僅かに上回っていたが，両学部生共に 40%にも満たなかった．以上より災害に対する防災対策や災害に対する知識の面では両学部ともに高いとは言えない．また両学部に大きな違いは見られなかった．

3.5 スマトラ沖地震後の各災害に対する関心度，予想被災率の変化

本アンケートの調査後にスマトラ沖地震が発生し，インド洋により歴史に残る大惨事が発生した．このような大規模な自然災害の後に防災意識にどのような変化があったのかを調べる目的で災害関心度と被災の可能性について再度アンケート調査を本学科の 2 年生, 3 年生に対して行った．その結果を**図-4**，**図-5** に示す．

関心度，危機意識は 2 年生，3 年生ともに上昇していた．このことから，災害後は災害に対する関心度が上がると共に，災害に対する危機意識も上昇する事が分かる．今我々は，現在人々が持っている災害に対しての危機意識をどのように保持し，高めていくかを考える必要があるといえる．

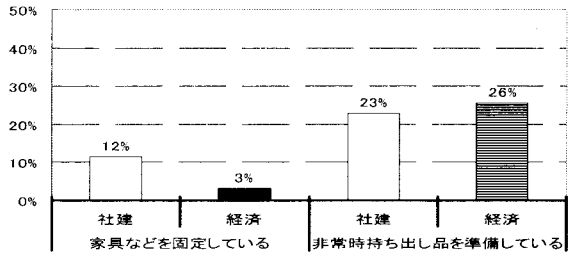

図-3 防災対策について

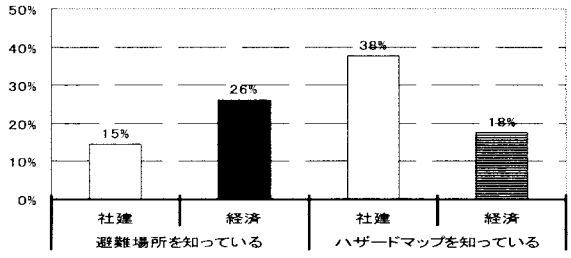

図-4　防災に対する知識について

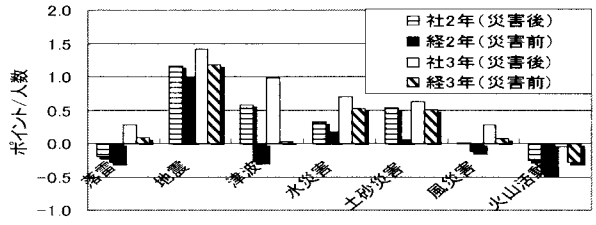

図-4　スマトラ地震後の災害別関心度の変化

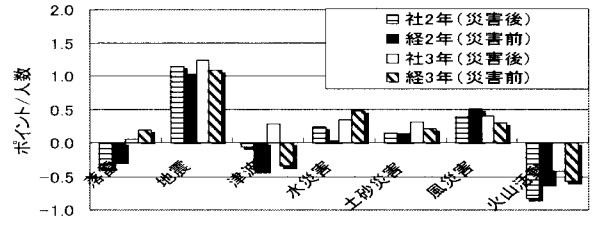

図-5　スマトラ地震後の災害別予想被災率の変化

4. まとめ

災害関心度，予想被災率，防災対策および知識は両学科ともに低調であった．おそらくこれはどの学部，学科の学生も同様であろう．また災害関心度，予想被災率は社会建設工学科の学生は経済学部の学生よりも高く，スマトラ沖地震後には災害に対する関心度，予想被災率は両学科共に上昇していた．このことから災害に関する情報に多く触れることが，防災意識の向上につながるのではないかと考えられる．

今後はより一般的にこの種アンケートを行い，防災意識レベルを解明していくことが望まれる．